

編集 後記

感染症に災害、さらには戦争と先の見えない日々が続きます。それでも時は巡り、新緑の眩しい季節となりました。暦どおりのお休みとはいかなかった方も少なくないかと思いますが、5月の風を感じて少しでもリフレッシュしたいものです。

さて、第69巻5号をお届けいたします。本号では、総説2編、原著4編が掲載されています。

まずは2編の総説から。加藤らは、社会的にも関心が高い「父親の育児参加」に着目し、母親、子ども、そして父親自身に与える影響について日本の研究論文のレビューを通じて現状の知見を整理し、同分野の研究の充実に向けた提言を示しました。西尾らは、日本を含む5か国のヘルスプロモーション施策についてナラティブレビューを行い、日本の健康格差縮小に向けた社会環境整備とその評価の充実に向けた提案をまとめています。

続いて原著は、多様なテーマの4編です。横山らは、フィンランドの母子保健サービスの場合である「ネウボラ」をモデルとする、未就学児の家庭を対象とした保健師による継続支援システムの導入前後の変化を、自治体保健師を対象としたフォーカスグループインタビューにより分析し、同システムの導入が早期の予防的介入や保健師のやりがいの向上につながる可能性を明らかにしました。東泉らは、軽度不調に関する質問票と健康指標との関連について、日本人を対象とした疫学文献のシステムティックレビューを実施し、軽度不調の評価に必要な質問票として、ストレス、睡眠の質、包括的な健康状態に関する質問項目が必要であることなどを示しました。辻らは、通いの場づくりによる介護予防を重点的に行ったモデル地区と非モデル地区との比較分析により、通いの場づくりの取り組みが地域レベルの健康指標の改善と、健康格差の是正に寄与する可能性を示しました。齊藤らは、地域集団を対象とした18年以上の長期に及ぶコホート研究の結果から、メタボリックシンドロームの脳卒中罹患リスクへの寄与は大きくないことを示し、肥満がない場合でも、高血圧等のリスク因子が1つ以上あることで脳卒中罹患リスクが高まることを再確認しています。

今号掲載の論文は、幅広いテーマ、地域、世代を対象としたもので、用いられた研究手法も様々です。公衆衛生が、私たちの社会や生活の様々な場面における課題解決に貢献する取り組みであることを改めて実感できる内容となっています。

これからも、多様な視点からの調査研究・実践のご報告をお待ちしています。

(冨尾 淳)

次号予告 (第69巻・第6号)

Original article

Prefectural public health nurses' support in human resource development for municipal public health nurses in Japan

.....Riho IWASAKI-MOTEGI, et al

原 著

都心部高齢者の孤立死の背景にある課題

.....木村博子

地方都市在住の高齢者における社会活動への不参加に関連する要因：富山県認知症高齢者実態調査の結果から.....新鞍真理子, 他
就労女性における就労形態別の労働要因および社会経済要因と受診抑制の関連

.....中川栄利子, 他

郵送法による地域在住高齢者の包括的な健康評価と将来的な要介護・認知症状態への移行との関連.....稲垣宏樹, 他

資 料

保健所における新型コロナウイルス感染症への対応：近畿保健所長会調査報告.....富岡公子, 他